

地域活性化という「遊び」

23

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

忘 年会、年越し蕎麦
おせち料理に新年会

こういう季節を迎えると
やはり人間は生きるために食べてい
るのではなく
食べるために生きていてのではない
かと思うことがよくあります。
最近子供たちの料理の腕が上がって
きたことや



長男が使っていたセラミック包丁は、
いま妹が使っています。

もつと料理する機会が欲しいという
彼らの希望もあり
集落の行事や僕の友人の集まりなど
でも料理を任せてみるが増えま
した。
料理を始めたのは
2歳か3歳の頃でしょうか。
きゅうりやトマトを切っている大人
を見て
同じことをやりたいというのが
子供というものです。
最初は友人からいただいた
磁石でくっつけてある
木製のきゅうりやトマトを
木製の包丁で切るといっておもちゃを
与えてみましたが
やはり偽物というのがバレてしまっ
てすぐ飽きてしまいました。

仕方がないのでいろいろ探して
京セラの子供用セラミック包丁を買
いました。
子供用と言っても
この包丁は先が丸くしてあるのと
持ち手が子供用サイズに作ってある
以外は大人用と同じで
熟したトマトもスパッと薄く切れる
ほど大変よく切れます。
そんなよく切れるもの子供に持たせ
ては危ないという人もいましたが
切れない包丁の方が
無理に力を加えたりしてしまうので
かえって危ないことも多いのです。
刃 を向ける方向や
リングやトマトなど軟らかく
力をあまり加えなくても良いものか
ら始めれば

子供は調理でも新しい楽しみを
次々と見つけていく

小さな子供でもそう簡単に怪我をす
るものではありません。

リングやトマトは
切つてすぐ食べられるので
子供にとっては
とても楽しいものでしょう。
どんどん切つては
食べ切つては食べと繰り返し
おなかがいっぱいになっても
まだ切つています。
そのうち親に自分が切つたものを食
べると言つて持つてきます。

最初は
ありがとうと言つていただきますが
こちらがおなかいっぱいになつても
まだ切つています。

この頃はまだ人のためにリングを切
つてあげたいという気持ちより
自分がリングを切りたいという気持
ちが上回っているの
仕方がありません。
子供というのはそういうものです。



魚は小学校1年くらいのとき始めました。

三男がまだ5歳の頃。
集落のおばあちゃんもヒヤヒヤです。

年

齢が上がるにしたがって
そのリングゴが

ジャガイモになり
ジャガイモが人参や大根に
そしてこの辺りで
一度くらいは血を流し
その後玉ねぎやネギで涙を流し
肉や魚へと
技術を習得していきながら
ぐんぐんと成長が続いていくわけ
ですが
まだまだ子供のうちは自分が作ら
いというのが優先。
もっと上手になりたい
もっと美味しいものを食べたい
という自分中心の欲の塊。
これは全く悪いものではなく

お年寄りが食べる
イカの握りなどには
かくし包丁を入れる
など、最近では
気くばりを楽しみに
しています。



お寿司の飾りも笹の葉で作ります。
これも子供にとっては楽しみのひとつ。

若いときはそれがあがるからこそ
僕らと違って
一気に階段を駆け上がるように知識
や技術も身につけていくわけです。
ただ食べ物の面白いところは
自分以外の人たちも毎日食べている
ということでしょうか。
自分で作ったものを自分で食べると
いうことを毎日繰り返ししていると
自分で作ったものを
他の誰かに食べてもらいたいと思
い始めるようになります。
最初に始めたのは
もちろん親や兄弟でしたが
そのうち友達や知り合いへと広がっ
ていき
最近では前述の通り
集落のおじいちゃんお
ばあちゃんにも食べて
いただいています。
作ることに
ある程度上達し
自分としてもちよつと
した自信も芽生えてき
たところでしたが
自分で食べるのと
誰かに食べてもらうの
では大違い。
育ち盛りの少年が食べ
るのと
88歳のお年寄りが食べ
るのでは

食べる量も好みも
全く違ってくるのです。
自分が良かれと頑張って作ると
量が多すぎたり
自分が美味しいと
野菜など歯ごたえを残した調理が
おばあちゃんには固く感じられたり
技術的なことを極めれば美味しいも
のができると思っています
その人にとって美味しいかどうかは
違うこともあるのです。
どういう風にすればその人が美味し
いと思うものが作れるのかというこ
とを考えなければなりません。
自分のためにリングゴを切り続けてい
た長男は今年18歳になり
食べていただく人によって
食材や調理法を考えたり
器を選んだりするのが
ただ料理を作るといふことより楽し
いと
新しい喜びを見つけたようです。
幸いなことに今年は
一回り大きな集落（と言っても小さ
いですが）の新年会の料理を担当さ
せていただくことになり
そこには小中高校生から
40代50代70代80代と色々な人が集ま
ります。
新しい楽しみを見つけた彼らが
どんな表現を見せてくれるのか
僕も楽しみにしています。